

# うしづま水辺の楽校 子供達のたくさんの笑顔、オクシズの魅カアップを目指す



手づくり郷土賞  
について

グランプリ  
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

## 1 社会資本の概要

「水辺の楽校（がっこう）」は、一級河川の安倍川の上流に位置し、河川管理をする中部地方整備局静岡河川事務所と静岡市が連携して平成 20 年に整備しました。約 1 万㎡の河川敷地には、「魚と泳ぐエリア」「魚のつかみ取りエリア」「水遊びエリア」などの、全 6 エリアがあり、水温は真夏でも 19℃前

後で、安倍川流域に生息するアユやアマゴなどが泳ぐなか、子供たちが一緒に遊びます。地元ボランティア団体である世話人会が主体的な運営にあたり、平成 21 年の開校以降毎年 2 万人程度が来校しているとともに、夏期以外でも様々な活動をおこなっています。



うしづま水辺の楽校（静岡県静岡市葵区牛妻地先）



水遊びエリア

## 2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

活動のきっかけは、近年、自然の中で遊ぶことが少なくなった子供達に水遊びを通じて、安倍川の自然の豊かさや大切さ、また川の危険についても伝えることを目的としています。幼少の頃から安倍川で育った 14 名が中心となり、地域や行政とも連携して活動を実施しています。

しかし取組の課題として、水辺空間の環境を良好に保つことや子供たちやその家族が安全に楽しめるよう監視することは、大変な苦勞があります。世話人会では、創意・工夫して取り組んでおり、ボランティア 10 人以上で毎日監視員として常駐しています。子供達が川で安全に楽しく遊べるよう、河原の草刈りや駐車場の運営、ゴミの持ち帰りなどを利用者へ温かく呼びかけており、地域住民の川に対する愛着を高め、地域と共に次世代へ継承を目指しています。

現在では、安倍川内の水遊び場において、子供たちが安全に泳いだり、魚のつかみ取りや筏乗りを体験できる取組や、土手をつくり川に親しむ取組をしています。



子供が主役「水辺の楽校開校式」



水辺の楽校開校中の賑わい



環境学習講座を開設

## 3 活動の成果や波及効果等

うしづま水辺の楽校は、行政と学校が連携した自然環境教育（小学校課外活動）の代表事例として、県内外の地域へ活動が波及しています。

新たな取り組みとして、近年激減したホタルの養殖を行い、施設周辺の水辺に幼虫を放流するなど「牛妻地区のホタルの再生」に挑戦し、通年の施設活用および地域の新たな魅力づくりに取り組んでいます。静岡市の中山間地域「オクシズ（奥静岡地域）」の賑わいの核として、春の子供会の祭り御輿など各行事には、地域一帯となり活動を継続させています。



自然環境教育（小学校課外活動）



春の子供会の祭り御輿

### 所在地

静岡市葵区牛妻地先

### 活動主体及び連絡先

うしづま水辺の楽校世話人会  
(054-294-0136)

### 対象となる社会資本

安倍川河川敷（うしづま水辺の楽校）  
※管理者：国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所



## 喜びの声



### 受賞者

うしづま水辺の楽校世話人会  
代表 川津 通久

### コメント

この度は手づくり郷土賞一般部門に選定頂きありがとうございます。

これからも子供達に五感を感じ、体全体で自然を体験してもらえるよう体験のサポートをしていきたいと考えております。

### 活動内容

水辺の楽校の運営・維持管理  
環境教育、ホタルの再生など

### 活動の経緯

平成 20 年 世話人会 設立  
うしづま水辺の楽校設置  
(国土交通省、静岡市と連携)  
平成 26 年 牛妻地区のホタルの再生  
平成 27 年 静岡河川事務所河川協力団体に指定

手づくり郷土賞  
について

グランプリ  
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編